

アサリ資源の保全と漁場回復 その対策と調査

1970・80年代に10～15万トンあった全国のアサリ生産量は、80年代以降減少を続け、現在は4万トンを下回るようになっていました。九州各県(福岡・熊本・大分)や山口県も同じ状況です。アサリ資源の保全と漁場回復に向けて、とるべき方策をご提案します。

方策実施の手順

アサリ資源の変動要因を確認して、その要因への対策を計画・実施する手順(確かめてからやる)、経験的に対策を実施して、その効果、資源量の回復状態を確認する手順(やってから確かめる)の二通りの手順をご提案できます。

前者の手順では、対策効果の不確かさを低減でき、後者の手順には、すみやかな対策がとれるメリットがありますので、問題となっている現地の緊急性・課題の重さなどから手順を選択します。

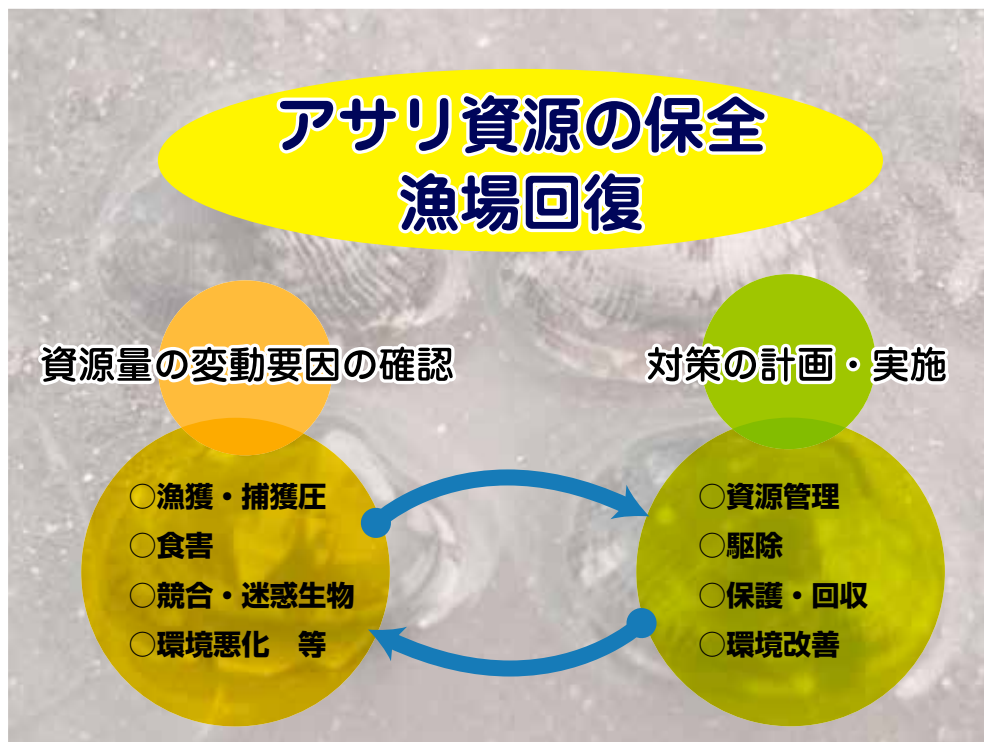
方策実施の具体化

資源量の変動要因を確認するために、アサリや環境の現地調査^{※1}をはじめ、漁業者への聞き取り、各種統計資料の整理をします。

対策の計画・実施では、アサリ保全の水産技術^{※2}の中から有効な対策を選択し、必要に応じて、効果を事前に確認する数値予測(シミュレーション)を行い、保全策を現地で施工します。

※1:成貝や稚貝の分布密度、稚貝の着定数、殻長組成(成長)、底質、波浪、競合生物等の調査

※2:エイ類・ツメタガイ類等の駆除、アオサ回収、保護網・竹柵設置、干潟耕耘、碎石散布、覆砂、人工干潟造成等



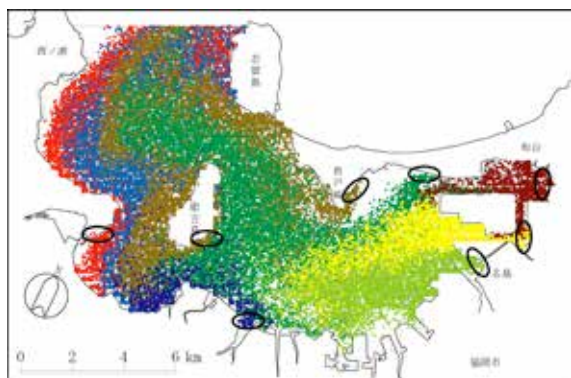
方策の実施の手順

当協会の研究実績の紹介

1.アサリ幼生の分散・起源

水中を浮遊して成長するアサリ幼生の分散を潮流シミュレーションとともに計算します。

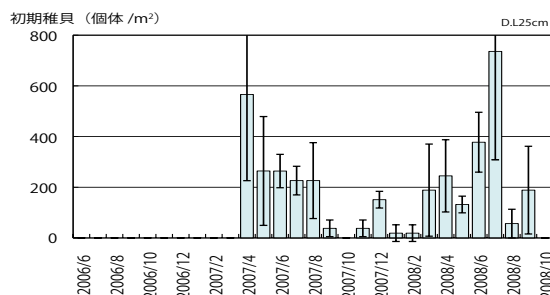
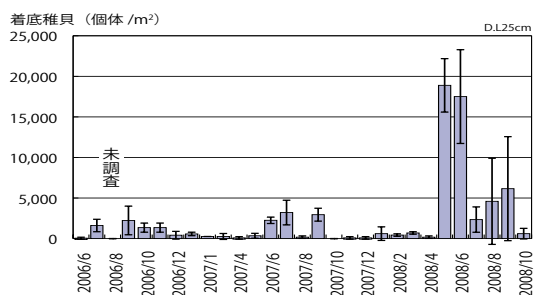
これにより、各産地のアサリ起源の推定や保全すべき母貝産地の重点化を図ることができます。



博多湾の各産地から産まれた幼生の分布

2.着底稚貝の加入数や季節変動

アサリは春・秋に産卵するとされていますが、当該干潟の加入状況を把握しておくことは、保全策を検討する上で重要な情報です。



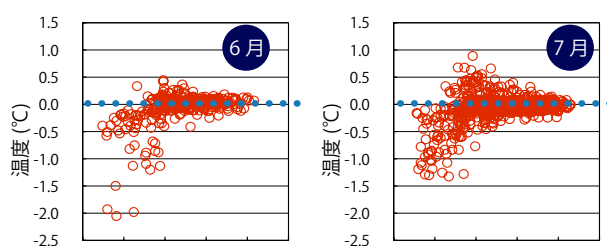
博多湾和白干潟における着底・初期稚貝の季節変化

3.保全策の効果検証

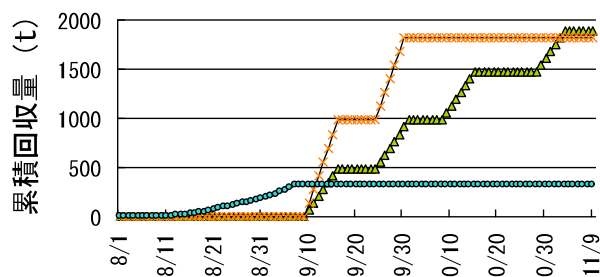
保全策の具体的な効果の確認を実施しています。

干潟耕耘では、底質硬度の低下による干潟温度の低下、これに伴う肥満度の増加が確認できました。高地盤域で夏季に高温影響を受ける場所では干潟耕耘も有効な対策となります。

大量発生したアオサが、アサリを斃死させることがあります。異なるアオサ回収方法について費用や保全効果を検証することができます。



干潟耕耘による温度低下の効果



異なるアオサ回収法による回収量の変化

4.食害生物による影響・資源管理

有明海や周防灘で増加しているナルトビエイの分布、標識調査、本種によるアサリ資源への影響の程度を確認することができます。

また、アサリ資源量や漁獲量、食害量を確認し、収支計算を行うことにより、資源管理の必要性とその程度を検証することができます。



一般財団法人

九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台1-10-1

TEL 092-662-0410(代表) 092-662-0445(環境保全課)

FAX 092-662-0411(代表) 092-662-0424(環境保全課)

e-mail:syougai@keea.or.jp http://www.keea.or.jp

業務担当 : 環境部 環境保全課

料金・見積担当 : 総務部 渉外課